

# Team チームの動き

## 魚のストレスを測る！ 漁獲したオコゼを救命する！

蓄養・輸送チーム

漁獲されたオニオコゼやメバルの蓄養技術の確立に向け、漁獲後の魚が感じている「ストレス」について、血液中の cortisol とグルコース量の変化を指標として調べる試みを実施しました。

また、オニオコゼは漁獲時についた傷が元で死にやすい魚ですが、蓄養方法を工夫して飼育することで、救命効果を高めることができました。この蓄養方法をさらに改善して、餌を与えて魚体を大きくするところまでを目指しています。



オニオコゼ試験魚からの採血（麻酔して作業）

## 江田島湾における

### かき養殖モデルの開発へ向けて！

かき養殖適正化研究チーム

最終年である今年度は、昨年までに集積したデータの解析を進め、かき養殖部分のモデル化を行っているところです。これを広島大学の江田島湾物質循環モデルに組み込み、精度の高い、汎用性のあるモデルの開発を目指し、チーム員一丸となって研究を進めています。完成したモデルは江田島湾のみならず、広島湾の全域の各かき養殖漁場での適正行使台数等の算出根拠となることを期待しています。



江田島湾のかき漁場

## 産卵回帰したトラフグの調査

資源調査チーム

4月から5月上旬にかけて、定置網で漁獲されたトラフグを調べるため、福山市内海町田島漁協さんへ再々お邪魔しました。これは産卵回帰したトラフグの中から標識魚（放流魚）を探すことを目的としたもので、長崎県を中心として取り組んでいる研究の一部です。

今年は残念ながらトラフグの水揚げが昨年と比べて少なく、調べる尾数も少なかったことから標識魚は見つかりませんでしたが、目が回るほど忙しい中、調査にご協力頂いた田島漁協の皆様には本当に感謝しております。



田島漁協へ水揚げされたトラフグ

## キジハタの種苗生産！

地付き魚生産チーム

地付き魚生産チームでは今年度も7月から（独）水産総合研究センター玉野栽培漁業センターよりキジハタの受精卵を受け入れ、種苗生産試験に取り組んでいます。

今年度の取り組み内容は主に仔魚の光に対する正の走光性を利用した浮上斃死防除法について、量産試験では引き続き低塩分飼育の低コスト化について検討する予定です。また、暑い夏がやってきます。



平成20年度生産のキジハタ幼魚